

## 日当直帯における血液培養陽性時のグラム染色鏡検結果報告の診療支援効果

◎伊藤 香<sup>1)</sup>、宮崎 伸子<sup>1)</sup>、川北 将規<sup>1)</sup>、岡本 智裕<sup>1)</sup>  
社会医療法人峰和会 鈴鹿回生病院<sup>1)</sup>

【目的】当院では、臨床側の要望と検査室の診療支援拡充の一環として、土日祝日関係なく8時30分から21時まで、血液培養陽性時にグラム染色を実施し鏡検結果を報告している。今回、日当直帯における血液培養陽性時のグラム染色鏡検結果報告の診療支援効果を検証した。

【対象と方法】検証期間は2022年10月～2024年5月、日当直帯で血液培養陽性となった566検体(269名)のうち、*Staphylococcus* 属と判明した104検体(66名)に対して、血液培養採取時の臨床診断とグラム染色鏡検結果報告後の医師の対応について解析を行った。血液培養検査は、BD バクテック™FX システム(日本BD)、グラム染色はグラム染色 neo-B&M ワコー(富士フィルム和光純薬)を使用した。

【結果】血液培養採取時の臨床診断は、肺炎などの呼吸器感染症26%、尿路感染症など24%、発熱性好中球減少症12%、蜂窩織炎6%、その他33%であった。鏡検結果報告後にその内容をカルテへ記載してあつ

た症例は32名(48%)であった。報告時すでに適切な抗菌薬投与が開始されていた・治療効果が認められると医師が判断した症例は41例(62%)、そのうちコンタミネーションの可能性が疑われた症例は4名(6%)であった。報告後に抗菌薬の投与が開始された・適切な抗菌薬に変更された症例は10名(15%)、そのうちICTから抗菌薬の追加を提案した症例は3例(5%)であった。

【考察】日当直帯にグラム染色を実施し鏡検結果を報告することは、微生物検査担当外の技師にとって負担が大きい業務である。しかし、血液培養陽性時にグラム染色鏡検結果を報告することで、血流感染症に対する適切な抗菌薬投与が速やかに開始されていることがわかった。今後、グラム染色の鏡検スキルの向上を目指すことで、より臨床側のニーズに応えていけるように検査室全体で取り組んでいきたい。

連絡先：059-375-1212(代表)